

## 教育民生建設観光委員会会議録

1. 日 時 平成24年5月18日(金曜日)  
午後1時54分~午後2時22分
2. 場 所 委員会室
3. 出席委員 岩本明央 委員長 俵 薫 副委員長  
徳並伍朗 委員 荒山光広 委員  
下井克己 委員 萬代泰生 委員  
岡山 隆 委員 秋枝秀稔 委員  
猶野智和 委員 秋山哲朗 議長
4. 欠席委員 なし
5. 出席した事務局職員  
石田淳司 議会事務局長 岩崎敏行 議会事務局補佐  
岡崎基代 議会事務局主査
6. 説明のため出席した者の職氏名  
村田弘司 市長 林 繁美 副市長  
藤澤和昭 総合観光部長 大野義昭 総合観光部観光総務課長  
綿谷敦朗 総合観光部観光振興課長 福田和司 市民福祉部長  
三浦洋介 市民福祉部地域福祉課長

午後 1 時 5 4 分開会

委員長（岩本明央君） 只今より教育民生建設観光委員会を開催いたします。先程の本会議におきまして本委員会に付託されました議案 2 件につきまして、審査いたしますので、ご協力をよろしくお願いを申し上げます。

その前に私ですね、先程の本会議で、副委員長の俵さんのご紹介が遅れましたことをこの場をお借りしましてお断り申し上げます。大変ご無礼いたしました。

それでは、最初に議案第 7 号平成 2 4 年度美祢市観光事業特別会計補正予算（第 1 号）を議題といたします。執行部よりご説明を求めます。はい、大野観光総務課長。総合観光部観光総務課長（大野義昭君） それでは、議案第 7 号平成 2 4 年度美祢市観光事業特別会計補正予算（第 1 号）についてご説明いたします。

本議案は、前年度、すなわち平成 2 3 年度の観光事業特別会計において、決算見込みにより歳入が歳出に不足することが判明したため、地方自治法施行令第 1 6 6 条の 2 の規定に基づき、平成 2 4 年度の観光事業特別会計の歳入を繰り上げて、これに充てることとする予算の補正であります。（発言する者あり）補正予算書の 7 - 1 ページをお開き下さい。

それでは、説明に入る前に、今回の予算補正の原因となった、前年度、平成 2 3 年度の観光事業特別会計の決算見込について、簡単に述べておきたいと思えます。

単年度収支では、2 億 4 , 2 6 1 万円の黒字決算となる見込であります。その前年度の平成 2 2 年度の赤字に対する繰上充用金として 9 億 8 , 0 9 3 万 2 , 0 0 0 円を要したことから、その差し引き 7 億 3 , 8 3 2 万 2 , 0 0 0 円の歳入が歳出に不足することが見込まれております。これを受けまして、本年度、平成 2 4 年度の観光事業特別会計を以下のとおり補正することとしております。

平成 2 4 年度美祢市観光事業特別会計補正予算（第 1 号）の 7 - 3 ページをお開き下さい。初めに、歳出の 5 款前年度繰上充用金・ 1 項前年度繰上充用金 7 億 3 , 8 3 2 万 2 , 0 0 0 円の追加でございます。先程説明申し上げましたように、前年度の予算に 7 億 3 , 8 3 2 万 2 , 0 0 0 円の歳入不足が見込まれるため、繰上充用するための補正でございます。

続きまして、歳出の 4 款予備費・ 1 項予備費 2 億 7 , 3 0 0 万円の減額でございます。これにつきましては、当初、予備費として、2 億 8 , 0 4 1 万 2 , 0 0 0 円を計上しておりましたが、このたびの歳入不足にかかる予算措置として、2 億 7 , 3 0 0 万円の減額を行うものでございます。

続きまして、7 - 8 ページをお開き下さい。歳入として、6 款諸収入・2 項雑入・2 目歳入欠陥補填収入4 億6,532 万2,000 円を追加するものでございます。これは、歳出でご説明申し上げました前年度繰上充用金7 億3,832 万2,000 円から、予備費の2 億7,300 万円を差し引いた額4 億6,532 万2,000 円を、歳入欠陥補填収入として補正計上したものでございます。

それではお配りしました資料を基にご説明申し上げます。初めに歳入からご説明いたします。秋芳洞、大正洞、景清洞、養鱒場、そしてリフレッシュパークの4 施設ごとの歳入見込額をそれぞれ秋芳洞6 億2,676 万3,874 円をアとし、大正洞及び景清洞2,780 万1,685 円をイ、養鱒場1,847 万8,826 円をウ、リフレッシュパーク3,740 万5,885 円をエと示しております。アからエを合計した歳入小計額7 億1,045 万270 円をオとしております。

続きまして、歳出についてご説明をいたします。秋芳洞に関する科目として、観光総務費の一般管理費1 億7,065 万2,188 円を とし、施設管理費5,379 万5,961 円を 、業務管理費の秋芳洞管理費 7,770 万7,914 円を 、次に、大正洞・景清洞管理費として、2,423 万9,431 円を 、養鱒場管理費 2,681 万4,351 円を とし、リフレッシュパーク管理費として、5,411 万7,054 円を とし、最後に、観光振興費・一般管理費6,051 万2,173 円を としております。 から を合計いたしました歳出小計額4 億6,783 万9,072 円を としてあります。

従いまして、先程ご説明を申し上げた平成23 年度単年度収支では、歳入小計額であるオ7 億1,045 万270 円から、歳出小計額の 4 億6,783 万9,072 円を差し引いた2 億4,261 万1,198 円の黒字となります。歳出小計額 4 億6,783 万9,072 円に前年度繰上充用金9 億8,093 万2,320 円を加えた歳出合計額1 4 億4,877 万1,392 円から、歳入合計額7 億1,045 万270 円を差し引いた7 億3,832 万1,122 円が歳入不足額として見込まれるものであります。

また、財政健全化計画との比較につきましては、財政健全化計画上は、平成23 年度の歳入不足額を6 億8,175 万2,000 円と見込んでおります。平成23 年度見込額では、5,657 万円の未達といった形になります。財政計画では、平成26 年度において、累積赤字の解消を予定しております。従いまして、今年度末の累積赤字額7 億8,332 万2,000 円を残り3 年間で解消することとなります。単年度

になおしますと、約2億6,110万円の単年度黒字が必要というふうになります。平成23年度の単年度黒字額は、約2億4,261万円ですが、平成23年度の支出のうち、単年度限りの特別な費用として、秋吉台家族旅行村の受水槽改修工事が約2,100万円、養鱒場の事務室の改修工事が約700万円あります。来年度以降こういった支出を予定しておりませんので、平成23年度の様況で推移するならば、単年度黒字額が約2億7,000万円程度となり、計画どおり平成26年度までの累積赤字は可能と考えております。なお参考資料として3洞の入洞者の集計表をお配りしておりますのでご覧になって下さい。以上でございます。

委員長（岩本明央君） 説明が終わりました。質疑はございませんか。どうぞ、岡山委員。

委員（岡山 隆君） まずですね、平成24年度の観光事業特別会計これをしっかりと見させて頂きました。23年度のこういった査定等、結果ですね、これをしっかりとちょっと見させて頂いてですね、今後当初単年度で23年度は2億4,000万円黒字ということで、今後24年度、今年度ですね、これについて今の管理費がいらないところがかかり出ているということも説明受けました。あと秋芳洞、大正洞、養鱒場、リフレッシュ、こういったところで一般管理費をもう更に切り詰めていってですね、それで更に単年度の収支黒字に幅を上げていく、今もう目いっぱいなことをされて、もうこれ以上の管理費の削減できなくなってる状況まで来てるのかどうか、この点についてはどうでしょうかね。

委員長（岩本明央君） はい、大野観光総務課長。

総合観光部観光総務課長（大野義昭君） 岡山委員のご質問にお答えいたします。今の質問でねもう管理費等の節約がもう目いっぱいなのかというご質問ですけど、現在のところ省けるところの経費と申しますか、なるべくできる限りの経費は削減しております。

特に人件費等なんですけど、平成22年と23年では、特別会計における人件費、職員の数ですけど、平成22年から23年には8名減らしております。だから平成24年度におきましては、これ以上を職員の数は減らせない状況で、あとはなるべく委託職員の対応で業務をやっております。

あと経費等はなるべく削減しながら、目いっぱいの状況でやっております。突発的な費用といいますか、特に災害等で特別な費用が出ない限りは、この状況で推移できるというふうに、今現在では考えております。以上でございます。

委員長（岩本明央君） はい、岡山委員。

委員（岡山 隆君） 今後予備費が平成24年度で、逆に言えば単年度収支黒字で2億7,000万円、そして今度25年度になれば、全く同じであれば2億切ってますね、26年度以降はプラスが出るということですよね。

だから今後その辺についてですね、今からしっかりと成長戦略といいますか、とにかく観光事業というのは、私は常にマンネリ化したら駄目と思うんですよ。だから、これ本当に常に改革・改善ですね魅力あるものにしっかりとですね、皆さんが知恵を出して、民間の方もいろいろな知恵は持っていると思いますので、その辺のところをきちっと精査して、皆さん貴重なご意見というのは結構皆さんいい知恵を持っちゃってますから、その辺をしっかりときちっと協議していくといいますか、そういったところのビジョンというか、今後のあり方、観光事業のあり方について、どのようにこのプラス、3年のちにはプラスになっていくにあたって、成長戦略、改善計画、マンネリ化防止対策のための対応をされてるのかどうか、その辺についてちょっと聞きたいと思います。

委員長（岩本明央君） はい、村田市長。

市長（村田弘司君） 岡山委員の本市の観光事業にかける熱い思いを有難く聞いておりました。（発言する者あり）私も一生懸命思ってますね。

実は今人件費のことを言いましたけれども、合併直前に出していた人件費が年間4億6,700万あったんですよ、観光事業全体で。これが今23年度で8,400万まで減らしてますので、実に3億7,000万ぐらい単年度の人件費を圧縮させています。その代わりある程度物件費は増えておりますけれども、その経常的な経費の主たる、やはりこれは人件費にかかるものなんですよ。この辺は圧縮できていったから、単年度会計が黒字に出来ておるといえることですね。この経常経費を落とすということは、ある意味守りの部分でもありますけれども、それをもってサービスが落ちるということは、厳として、いむべきと思っておりますので、委託職員の方にも一生懸命やって頂いておりますし、職員数が合併直前では52名あったのが、現在11名まで減らしております。その代わり委託職員の方に仕事について頂いて、サービスは更に向上させつつ、やっておるといえることが一つ。

それと世界ジオパーク目指そうということ大きなビジョンを立ち上げておりますけれども、一つの秋吉台、秋芳洞だけという特化をさせていきますと、やはり先々のことを考えると、全体の交流人口が国内で落ちてきておると現状があります。ですか

ら私はもう目が東アジア、東南アジアのほうにやはり向けていって、国内のお客様は維持する。維持するということは、実は全体のパイが小さくなってますから、増えると同じことになるのですが、その上に国外からのお客さんを、美祢市に導き入れるということを考えております。

そのことを実現具現化するために世界ジオパーク構想を立ち上げて、今市民総ぐるみでやろうとしておるんです。今そういうことをどんどん市民の方いろんな思いを持っておられるから、良いところは聞いて下さいよということをおっしゃいました。今後世界ジオパークを本格的に動かしていく中において、いろんな市内の団体、それから個人の方々のお気持ち、それからいろんな方々のビジョンがあると思います。それをお伺いして、それを美祢市の将来に向けて、交流拠点都市たる美祢市、そのコアたる、中核たる秋吉台、秋芳洞中心として、長登の銅山跡も、美東にはありますし、美祢地域には大岩郷もあるし、いろんなところ、そして6次産業化によって、この農林産物も魅力あるものに作りだして、それをまたお売りをするというので、市内全域を大きく活性化に導きたいというふうに思っております。

今、岡山委員がおっしゃったことは非常に大切なことですので、そのことは常に胸において、私も市のリーダーとしてやっていきたいと思っておりますので、どうかこの本委員会の方々も専門的な委員でいらっしゃる。ですから、いろんな前向きのご意見も賜りたいし、また共にですね将来の美祢市の進展のために、振興のために頑張っていきたいというふうに思っておりますので、またいろいろとよろしく願いをいたしたいと思っております。以上です。

委員長（岩本明央君） はい、岡山委員。

委員（岡山 隆君） 今、市長の思い非常に大切なことであって、特に台湾、中国とか、そういったところからしっかりと新たに観光客を呼び寄せると、そういうところの強い思いよく分かります。それでそれも大事なことであると思っておりますし、よく日本のいろんな様々な産業でアニメをですね、インドとかあっちこっちに出していると、だけどそのアニメも相手方にしっかりと合わせるといいますか、その文化に合わせたような対応をしないと、やっぱり売れないということもあります。だから今後中国にしてもインドになろうか台湾にしても、そういった方がこの日本の秋芳に来られるに当たって、その人達が本当に納得するような、またやっぱり違うなという、そういった相手に合わせたような観光の誘致というの、私は一つの戦略の一環として考えていかなくちゃならないと思っておりますので、その辺について市長どうでしょ

うかね。

委員長（岩本明央君） はい、村田市長。

市長（村田弘司君） よくおっしゃって頂きました。これも先日来触れておりますけれども、実は早ければ来月、遅くても7月中に、台湾、台北のほうに美祢市の交流拠点施設を設置をするということをもう決めております。実は一昨日も、台湾の福岡総領事、それから領事の方と具体的な話をさせてもらいました。今、最終的な日程を台湾本国と詰めさせて頂いてるところです。

なぜ台湾、台北かといいますと、シンガポールについて、台湾、台北が第2位のアジア圏では貿易等ですね拠点なんです。ちょっとシンガポールは遠いございますし、台北選んだ理由は、中国本土のほうと共産圏に当たりますけれども、直接人の流れ、そして物の流れを構築するよりも、台北という台湾という自由主義圏を一つかませることによって、中国本土からも人がお呼びできるということが、具体的に昨年台湾を訪れたときわかりましたので、その辺も含めてやりたいと思っています。

このことは一昨日同じ席で、福岡の前知事の麻生さんとも話をさせて頂きました。麻生さんも全く同じ気持ちで福岡はそれをやっていると、現在の知事も同じ思いを継いで貰ってるので、やっておられるということです。ですから非常に台湾を大切にしておられましたね。そのことによって今、福岡にたくさん人が来ておられるという現実があります。私も今、麻生福岡前知事から私がやっておられることは県レベルじゃない、市レベルだけでもすごいことやっておられるので、どうか本当にこれを成功に結びつけてほしいと、注目してるからというふうにおっしゃって頂きましたけれども、今後今のような思いを持って、このアジア圏からたくさんの人を美祢市に導き入れたいと思っています。

県全体が疲弊化してますので、この美祢市が元気になるということは県全体も元気になると私は思ってますので、これは中国地方の元気にも繋がりますので、中国市長会もこの間ありました。私行きましたけれども、非常にこの美祢市の活動を注目しておられるということもあります。3万を切る人口規模の小さな市ですけども、非常に今我々の市は元気に躍動しておるということをですね、市民の方々、議会の方々もご理解を賜りたい。ですから、いろんな建設的な意見を賜りたいということをお願いしておきます。以上です。

委員長（岩本明央君） 岡山委員よろしいですか。そのほか質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（岩本明央君） それでは本案に対するご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（岩本明央君） それではこれより議案第7号平成24年度美祢市観光事業特別会計補正予算（第1号）を採決いたします。

本案について原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（岩本明央君） 全員異議なしと認め、よって議案第7号は原案のとおり可決されました。

次に議案第8号平成24年度美祢市住宅資金貸付事業特別会計補正予算（第1号）を議題といたします。執行部より説明を求めます。三浦地域福祉課長。

市民福祉部地域福祉課長（三浦洋介君） 議案第8号8-1ページでございます。平成24年度美祢市住宅資金貸付事業特別会計補正予算（第1号）についてご説明いたします。

これは、平成23年度決算見込において、歳出見込が3,281万8,000円であるのに対し、住宅資金償還金の未納により歳入見込が206万2,000円となり、差し引き3,075万6,000円の歳入不足が見込まれます。このため地方自治法施行令第166条の2の規定により、平成24年度から繰上充用を行うための補正をお願いするものでございます。

¥ それでは平成24年度美祢市住宅資金貸付事業特別会計補正予算（第1号）の8-10、8-11ページをお開き下さい。以上によりまして、歳出につきましては、前年度繰上充用金を3,075万6,000円計上し、歳入につきましては、8-8、8-9ページにお戻り下さい。款諸収入・項貸付金元利収入・目住宅資金貸付金元利収入として、同額の3,075万6,000円を補正計上しております。

以上の補正によりまして、平成24年度美祢市住宅資金貸付事業特別会計における既定予算の歳入歳出それぞれ3,075万6,000円を追加し、歳入歳出予算それぞれの総額を3,260万2,000円とするものでございます。以上よろしく願いします。

委員長（岩本明央君） 説明が終わりました。本案に対する質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（岩本明央君） ないようです。本案に対するご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕



委員長（岩本明央君） それではこれより議案第8号平成24年度美祢市住宅資金貸付事業特別会計補正予算（第1号）を採決いたします。

本案について原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（岩本明央君） 全員異議なしと認めます。よって議案第8号は原案のとおり可決されました。

以上持ちまして本日の本会議で本委員会に付託されました議案2件につきましての審査を終了いたしました。それではこれにて本委員会を閉会いたします。ご審議、ご協力誠にありがとうございました。お疲れでございました。

午後2時22分

---

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成24年5月18日

教育民生建設観光委員長

岩本明央